

恥骨による性の識別の試み

茂田良光・中森純也

鳥類の骨盤 pelvic girdle は、哺乳類や他の脊椎動物と同様に各2対の腸骨 ischium、座骨 ilium、恥骨 pubis および仙骨から構成される。鳥類の骨盤は、恥骨が座骨と平行に後方に向かっており、ダチョウを除き、左右の恥骨が結合せずに離れているのが特徴的である (Campbell & Lack, 1985)。哺乳類では雌雄で骨盤の形が異なり、雌では骨盤によって構成される骨盤腔 pelvic cavity が雄より大きいことがよく知られている。鳥類においては左右の恥骨間距離が産卵のため雌で雄より大きいことが知られており、飼鳥では恥骨間距離による性の識別がとくにオウム類で行われている (Stromberg, 1977)。標識調査の性の識別には、今まで恥骨間距離による方法はあまり用いられていないが、演者らはこの方法の有効性を確かめるために標識調査時に捕獲された鳥の恥骨間距離を測定する方法を考案し、本年、測定を試みたので、ここにその方法と結果を発表し、参考に供することにする。

恥骨間距離の間隔が広いか狭いかは、指で恥骨の先端に触れることにより、判定することができる。しかし、生きた鳥で実際にノギス等で測定することは多くの場合、不可能であり従来は、調査時に人差し指で恥骨間に触れて広いか狭いかを判断し、性の識別の際に参考とするに留まっていた。今回、考案した恥骨間距離の測定方法は次の通りである：1) コピー機を用いて 1 mm メッシュの方眼紙を透明な粘着シートにコピーする。2) 方眼紙がコピーされた粘着シートを人差し指の爪の上に貼る。3) 粘着シートを貼った人差し指の先を左右の恥骨の先端にあて、粘着シートを上から見て人差し指に触れる左右の恥骨の先端から恥骨間距離を読み取る。

恥骨間距離の測定値は 51 種 337 個体について集めることができた。各種の測定数は多くないが、雌雄の測定値が得られた 6 種の測定値 (単位 mm) はコアジサシ：雄・成鳥 8-11 (n=7)、雌・成鳥 12-18 (n=8)、キジバト：雄・成鳥 5 (n=1)、雌・成鳥 19 (n=1)、ノゴマ：雄・第一回冬羽 6-10 (n=34)、雌・第一回冬羽 8-15 (n=15)、ウグイス：雄・成鳥 3 (n=3)、雌・成鳥 11-13 (n=12)、雄・第一回冬羽 4-6 (n=4)、雌・第一回冬羽 8-12 (n=4)、アオジ：雄・成鳥 4-7 (n=11)、雌・成鳥 13-14 (n=2)、雄・第一回冬羽 5-7 (n=13)、雌・第一回冬羽 12-15 (n=16)、コカワラヒワ：雄・第一回冬羽 6-7 (n=2)、雌・第一回冬羽 12-16 (n=10) となり、雌雄で測定値の範囲に重複はほとんどなく、有意差が認められた。卵のサイズ (Kobayashi & Ishizawa, 1932-1940) と比較したところ、雄では卵の短径の半分以下であり、雌では卵の短径の半分以上あった。

引用文献

- Campbell, B. & Lack, E. 1985. A Dictionary of Birds. T & A D Poyser Ltd., Calton.
Kobayashi, K. & Ishizawa, T. 1932-1940. The Eggs of Japanese Birds. Rokko, Kobe.
Stromberg, L. (Compiled) 1977. Sexing all fowls, baby chicks, game birds, cagebirds. Stromberg Publishing Company, Pine River, Minnesota.